

版画の種類	木版	学校名	松江市立中央小学校	指導者	奥村 文子	
題材名	色版画を楽しもう		学年	4年生	時間	8時間
題材のねらい ・自分が表したいことを見つけて、版に表すことを楽しむ。 ・彫りをすすめたり、色づけと刷りをくり返しながら、自分の思いを伝えることができるような版の表し方を工夫をする。						
版画の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさが小さい版であることで気軽に取り組むことができる。 ・線彫りが中心であることから、彫刻刀の扱いが簡単であり、初歩的な技能から入ることができる。 ・バレンを使わず、指で押さえて刷り出すために、色づけを一つ一つ確かめながら進めることができる。 ・身近にある絵の具を使って色刷りするため使いやすく、版画インクと較べ費用がかからない。 ・一つの版で一作品でき、全く同じ色の作品はできないため、オリジナルな作品をめざすことができる。 					
準備	はがきの大きさの版木、彫刻刀（三角刀）、版画用マット・版画用作業版、絵の具、筆、筆洗い、筆ふき布、とりのこ紙（黒）、セロテープ、下書き用紙（スケッチ用紙）、鉛筆、新聞紙					

授業のながれ

授業のながれ	ワンポイントアドバイス・裏技
1 色版画について知る。 今までやってきた版画との違いを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・版は木でできている。 ・彫刻刀を使う。 ・絵の具を使って色をつけていく。 ・色や形の付き具合を確かめながら刷っていく。 ・一枚の作品の出来上がりを考えながら工夫していく。 ・出来上がった作品の使い方。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品の提示 ・色版画の作り方、完成までの手順、使う材料について説明し、木版・色刷りについてのイメージが持てるようにする。 ・指導者や児童が作った工程を写真や参考作品として残しておき、提示するとわかりやすい。 ・作品の使い方、生かし方 世界に一つしかない自分の作品として、飾る。（家の玄関、自分の部屋などの飾る場所を考えるとイメージも広がる。）カレンダー、本の表紙などにもできる。（児童のアイディアに耳を傾け、めあてを持たせることで、主体性・意欲が増してくる。）
2 どんな絵の版にするか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな絵にしようか ・何に使うといいかな。 ・参考になるものを探そう。 （身近な暮らしの中からはよく見かける生き物や、花。珍しい生き物や花、海の生き物。線がきれいだな。色がたくさんある。きれいだな。） ・スケッチをしてみる。 （スケッチをためていこう。自分で一番良いものを選ぶ。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物の形をヒントに考えていくと柔らかい動きのある線や細やかな線が出て来る。 ・色や形が美しい、おもしろい等の素直な子どもたちの反応を大切に受けとめ、それをもとにした自分の絵になるようにしていく。

3 版を作る

- ・ハガキ大の版に4B鉛筆などで下絵を描く。
- ・絵の線に沿ってを三角刀で線彫りをする。

4 刷る

刷り紙の準備をしておく。

とりの子紙に絵の具の黒色を予めムラなく塗って乾かしておく。(紙の大きさは、ハガキの大きさより周囲1センチ程度のゆとりがあるようにする。使う枚数分+予備数)

①版に、作っておいた刷り紙の端をセロテープでとめる。版の上にかぶせてみて、きちんと合うのを確かめる。

②絵の具の準備をする

- ・版を置く机の上に新聞紙などを敷く。
- ・使いたい色を準備する。

③版に色をつける

- ・筆(中・小)で色を版につける。
- ・色をつけたところに刷り紙を静かに当てて、指でこする。
- ・開いてみて、色のつき具合を見る。
- ・色を試しながら、自分のイメージの色づけをしていく。



④できた作品を版からはずして新聞紙の上に乗せて乾かす。

⑤2回目の刷りをする。

版の絵の具を水道水で洗い流す。
布で拭き取る。
乾いてから、③④を繰り返す。

5 作品の仕上げをする。

- ・作品の縁を5mmほど残して切る。
- ・作品を用途に合わせて台紙に貼る。
- ・もとの版の使い方も考える。

6 後片付け

- ・パレット、筆をきれいに洗って手入れをしておく。

- ・鉛筆の芯が堅いと版に跡がつくので、柔らかい芯の鉛筆がよい。スケッチの訂正もしやすい。
- ・版に大きくのびのびとした線で描くようにする。形が小さいと彫りにくく、表したいことがわかりにくい。
- ・参考例を作っておくとわかりやすい。(指導者が試したのものがあると最適。)
- ・三角刀は線がはっきり見え、溝が深いため、刷ったとき線の細やかさが出て美しく見える。(児童がここで感動することが多い。)
- ・線の太さは、均等でなくてよい。その子らしいリズムや力強さ、細やかさが出るのが楽しい。

- ・線彫りの溝を絵の具で埋めると、鮮明な線が出にくくなる。
- ・絵の具の水分が多かったり、濃すぎたりすると、うまく刷れないことを、体感しながら自分で調節していくようにしていく。
- ・白色を混ぜることによって、色が鮮明になってくることも知っておくと生かせる。
- ・つける色がうまく写らないときは、一回乾かしてからもう一度色を重ねていく。色を重ねていくことで、微妙な色の変化が出てくる。
- ・乾くと紙の四方が持ち上がったたり、曲がったりするので、紙を挟んで、図鑑などで重しをしておく。

- ・刷る途中や、刷り上がったきた段階で時間を取り、3分間鑑賞タイム(机の間をそれぞれ回って見させてもらう。)等を設けると、友だちの取り組みから刺激を受けたり、見通しを持ったりすることができる。

5 発展（こんなこともできるかな）

○作品をどんなふうにするか考えてから作る。

例

カレンダー作りをしよう

本の表紙づくり

絵本のさし絵 便せん、絵手紙

○版の形を工夫する。

・糸鋸ミシンで好きな形の版を作る。

・楕円形、長方形、正方形、菱形、イメージに合った形などを工夫する。

（作業がやりやすいように、あまり大きな形にならないようにする。小さすぎても表現したいことが表しにくい。）

○組み合わせを楽しむ

・同じ版でいくつも作品を創っていく。回ごとに色を変化させ、出来上がった作品を組み合わせて、さらにできあがりのイメージを発展させた作品づくりをする。

・数枚の版木を使って、絵の内容を変化させ、組み合わせしていく。

（高学年の学習にも利用できる。）

○刷り終わった版も一つの作品

・色が残った版の状態が、美しく見える。そのまま、手作りの額や作品立てを作って飾っても別のオリジナルな作品ができる。家の机の上や棚、玄関に飾っても良い。

6 取り組んだ先生から ひとこと

・まず、指導者が自分でやってみると、楽しくて熱が入ってしまいます。実際、私も研修会で教えていただいて楽しかったことが、実践のきっかけとなりました。下絵はあまり凝らなくても簡単な形でできます。（本物のスケッチは理想的ですが、雑誌や図鑑から見つけてきて自分らしさが出てきてオリジナルな作品になっていきます。）そして、色づけをしていくうちに、もっと変えていこうという気持ちになっていくので不思議です。

・もとの版に残った色の重なりがとてもきれいに見え、何に使うか考えてみたり、取っておきたい気持ちになるところが他の版とちがうということにも気づきました。

授業で生まれた色版画の作品

（中央小学校・母里小学校児童作品）



きれいな花



4年



世界に一つの花



4年



きれいな魚 4年



静かに泳ぐ魚 4年



伯太川のしっぽうろこのきれいなこい
安来母里小 4年